

小中連携をさらに一歩進め、教育活動の充実を図りましょう

西部管内では平成22年度より小中連携推進事業を実施し、各中学校区における小・中学校の連携を推進しています。子どもたちにとって、9年間の学びがよりスムーズなものとなるよう現在実施している取組の見直し・改善を図り、小中連携をさらに一歩進め、教育活動の充実を図りましょう。

各中学校区（47校区）における小中連携の取組

西部管内の各中学校区では、9年間を見通した教育課程の編成・実施、児童生徒間・教職員間の交流等を行っています。各学校が小中連携の必要性を理解し、学力向上や生徒指導、キャリア教育等の充実を図るための手立てとして、小中連携を位置付けています。以下の取組等を参考にして、さらに一歩進めて、教育活動の充実を図っていきましょう。

【学びのつながりを意識した学習指導】

小・中学校教員が互いの授業を参観し合い、小中合同授業研究会を実施することで、双方の授業形態や指導方法のよさについて理解を深めています。子どもたちの小学校の学びが中学校の学習につながるようにするとともに、自らの授業改善にも生かしていくようにしましょう。

<先生方の声>

「学びの連続性を意識した指導がどのように子どもに役立っているのかなど、明確な視点をもって中学校の授業を参観するようになりました。（小学校）」

「丁寧な指導、子どもの心に寄り添った指導を以前よりも意識するようになりました。（中学校）」



さらに一歩進めて → 小中9年間の系統を踏まえた指導の実現に向け、小中合同で授業スタンダードや学習ルールを作成するなどして、授業改善に努めましょう。

※9年間で目指す子どもの姿を小中合同で設定したり、授業の交流（合同授業研究会や乗り入れ授業など）を通してその達成に向けた授業の在り方について研究したりする推進校区が増えてきました。

【児童生徒の交流を通じた生徒指導】

小・中学生が互いの学校に出向き合同であいさつ運動を実施したり、小学校6年生が中学校の授業や文化祭を参観したりするなど、児童生徒の交流が進んでいます。小学生が抱く中学校生活への不安感の軽減だけでなく、中学生のリーダーとしての意識の高揚にもつなげるようにしていきましょう。

<先生方の声>

「子どもを中学校区全体で育てていくという意識が、以前よりも強くなりました。」

「子どもたちの交流の様子を家庭・地域にも発信することで、取組への理解につながっています。」



さらに一歩進めて → 児童生徒間交流や職員間交流における連携の目的を明確にしたり、活動内容を充実させたりしながら、取組の質的向上を図りましょう。

※小中連携による取組を評価するために、中学校1年生の生徒や保護者を対象に小・中学生の交流活動についてのアンケートを実施している推進校区もあります。

平成27年度モデル校区：高崎市立寺尾中学校区(寺尾中、寺尾小、城山小)の取組 ＜小中合同のいじめ防止活動の充実＞

小中3校の共通の取組として、年2回、家庭と連携した「お手伝い月間（週間）」を実施しています。子どもたちが家事の手伝いをしたことを、家庭で意識的にほめてもらうことで、子どもの自尊感情を育成し、いじめ防止につながっています。また、3校合同によるPTAセミナーを開催し「やる気を出させる子どもとの接し方」について保護者を対象に講演会やワークショップを実施するなど、保護者への啓発も行っています。



【3校合同PTAセミナーの様子】